伊良部県立自然公園

指定書

沖縄県環境保健部自然保護課

目　次

1　指定理由 …… 1
2　地域の概要 …… 2
（1）景観の特性 …… 2
　ア　地形・地質 …… 2
　イ　植　生 …… 3
　ウ　野生動物 …… 5
　エ　人文その他景観 …… 6
（2）利用の現況 …… 7
（3）社会経済的背景 …… 7
　ア　土地所有別 …… 7
　イ　人口及び産業 …… 8
　ウ　権利制限関係 …… 9
3　公園区域 ……14

指定理由

宮古諸島は、沖縄島の南西約300kmの位置にあり、宮古島を中心として８つの有人島に６市町村があり、八重山諸島を含めて先島諸島とも称され、行政的、文化的に本県の一圏域を構成する。

宮古諸島は、隆起石灰岩を基盤とする平坦な地形と、これを取り囲むサンゴ礁の海により景観が構成され、海岸線を主体として優れた風致景観を生んでいる。

伊良部町のある伊良部島と下地島の２島は、宮古島の西方約４km沖合いに位置する。伊良部島は、東側が牧山の約89ｍを最高とした海蝕崖が連続し、西側に向かって緩やかに傾斜する広がりのある段丘地形、下地島は、最高標高約13ｍ以下の殆ど平坦な地形である。両島の沿岸域は、隆起サンゴ礁の特徴的な地形である海蝕崖や岩礁で構成され、その規模は本県においても有数である。特に、下地島西岸域には、県天然記念物に指定された「通り池」に代表されるような鍾乳洞が崩壊してできた大小の池が散在するなど、本県を代表する優れた自然景勝地ともなっている。また、伊良部島と下地島の間に挟まれた細長い海水路は、本県では類のない地形景観及び環境となっている。

植生は、石灰岩自然植生を基調とする。また、海岸線の植生は、風衝地形とも相まって、厳しい季節風の影響を受けて矮小化した植生が発達し、地形景観とともに風致性を高めている。特に、下地島西部のアダン群落は、県内では類のない規模である。

伊良部町は、国際保護鳥であるサシバの渡りの重要な中継地で、毎年寒露（１０月上旬～中旬）の頃に大群をなして飛来してくる。そのうち１００羽程の越冬サシバが翌年の春までとどまっている。宮古地域には、サシバにまつわる伝説や歌があるなど地域固有の文化になるとともに、近年その保護活動が積極的に進められている。

以上のように、伊良部町は、自然的、社会的及び経済的諸条件に配慮し、優れた自然景観の適正な保護、かつ、効果的な利用を促進することが求められている。

よって、伊良部町の陸域及び周辺海域については、これを自然公園として指定し、地域の振興、県土・自然景観の保全、県民の保健、休養及び教化に資するものである。

2　地域の概要

（1）景観の特性

ア　地形・地質

伊良部町は、宮古島から北西に約４kmの海洋上に位置する島である。その面積は伊良部島が29.53km²、下地島が 9.65km²で、両島合わせて39.18km²となる。

地形は、両島とも全域隆起石灰岩からなり、また全体的に石灰岩特有のカルスト地形を形成し、海岸線と台地・段丘部からなり、山地部と水系の発達は見られない。

伊良部島の東側海岸線は、北の白鳥崎から南の牧山南海岸まで約８kmにわたって標高40～70ｍの急崖地形を形成し、その上部は平坦な台地を構成している。ここより西に向かっては、ゆるやかな斜面地が広がる。白鳥崎から下地島を通り牧山南に至る地形は低位の段丘面となり、海岸線は岩礁のリアス様式の入り組んだ形態で、多くの小内湾が形成され、海岸植生と相まって美しい景観を呈している。

とりわけ、下地島空港南端海岸から空港北端海岸までの約４kmの海岸線は、海岸から約10ｍの断崖を形成し、その形状は複雑、且つ多くの海蝕洞が見られる。台地部は石灰岩特有のカルスト地形で、鍾乳洞が崩壊してできた大小の池（ドリーネ）がある。特に、「通り池」は、県の自然を代表する優れた自然景勝地になっている。ドリーネ、海蝕洞を相伴った地形は、規模の大きさを含め沖縄地域では類のない景観となっている。

伊良部島と下地島の間は、幅50～100ｍ前後、長さ約３km、途中数多くの小湾のある入江水路が形成されている。そして、マングローブの生育する干潟様の底質とも相まって、島の自然環境及び景観の資質を高めている。このような環境及び景観は、県内では宮古島の大浦から西平安名岬に至る東側海岸線に小規模なものがみられる。

水路に沿った伊良部島側には、北から佐和田集落、長浜集落、国仲集落、仲地集落及び伊良部集落が立地する。

水路の北側には、東西・南北約３kmの内海（礁湖）があり、美しいサンゴ礁景観を呈している。ここには、明和の大津波によって打ち上げられたとされる無数の転石が散在し、特徴ある景観を呈している。また、この内湾全域が浅瀬で、伝統的漁法（魚垣漁）が行なわれている。

砂浜地形は、伊良部島に３ケ所ある。牧山南側の海岸線と伊良部集落南側の渡口の浜及び佐和田集落の佐和田の浜である。

最も長い牧山南側の海岸線が約１㎞、渡口の浜と佐和田の浜が約500ｍである。いずれの砂浜も砂が細かく、そして、海浜植生が発達した自然度の高い海岸が維持されている。

以上のように地形特徴としては、台地部は伊良部島東側の牧山（標高89ｍ）を最高地点とし、ここより北端の白鳥崎まで海岸線に沿って丘陵台地が形成されている。牧山は、伊良部島と下地島及び宮古島の全域が眺望できる地点にあり、景観の支配的地位を占め、かつ、地域のシンボル的要素となっている。

台地と海岸によってかこまれたゆるやかな斜面地は、石灰岩特有のカルスト地形が発達し、溶蝕地形（ドリーネ）やウバーレがいたる所に分布している。大竹仲洞は最もよく知られたドリーネの一つである。斜面地はほとんど耕作地として利用され、サトウキビ畑とカボチャ畑が主である。

西側の海岸線近くの斜面地には集落郡が形成され、佐良浜集落を除いてすべてこの一帯に集まっている。佐和田集落の入江に面する地域は、以前は県内でも数少ない湿地帯であったが、現在は耕作地として利用されている。

下地島は、全域石灰岩低地の平坦地である。北西部に位置する飛行場は、下地島の約３分の１を占めている。飛行場と南側の海岸線との間はサトウキビ畑に利用されている。

なお、地質は下地島の東側一帯に赤褐色粘土層がみられるが、ほとんどは隆起性の石灰岩である。そのため、土壌は保水性が低い。

イ　植　生

自然植生は、海岸線と丘陵台地部、御嶽等に残っている。

海岸線の植生は、隆起サンゴ礁植生と砂浜植生及び砂泥質海岸植生に分けられる。また隆起サンゴ礁植生は海崖植生と岩礁原植生に分けられ、海岸景観の多様性を特徴づけている。

伊良部島の東側を形成する丘陵の縁一帯は、強い季節風の影響を受け、矮小化した植生が分布する。海に面する崖部にはトベラ群落・テンノウメ群落、それに続く

急斜面地はアダン・ススキ群落、台地部はオキナワシャリンバイ・アダン群落が発達する。そこから内陸側にはリュウキュウマツ、モクマオ林が植林されている。

急斜面地から崖部にかけては人為的影響を受けることなく、現在も自然状態のままで残され、且つ、複雑な地形も反映した海岸植物が見られ、景観的にも優れ貴重である。

北端の丘陵台地部はコウライシバ群落が発達し、伊良部島北海岸線が眺望できる良好な場所となっている。

伊良部島及び下地島の海岸線の大部分を縁どる岩礁原植生は、クサトベラ群落やアダン群落の灌木林とイソマツ群落、オキナワシャリンバイ群落、コウライシバ群落が調和して独特な景観を生み出している。

伊良部島の砂浜は、いずれも浜堤を形成しており、砂堤上にはクサトベラ群落、オオハマボウ群落、アダン群落の順に表れ内陸部に続く。海側から砂浜に向かっては、グンバイヒルガオ群落を中心としてハマササゲ群落やツキイゲ群落で占められている。

伊良部島と下地島の間の内海は、メヒルギ群落、シマシラキ群落、オオハマボウ群落、クロヨナ群落が内陸部へと配列している。砂泥質海岸植生の分布を知る上で貴重な植物群落景観である。

内陸の耕作地には点在する御嶽がある。即ち、佐和田世乞御嶽、黒浜御嶽、仲御嶽、長浜世乞御嶽、国仲御嶽、乗瀬御嶽、コンマブキャー御嶽等である。いずれの御嶽も拝所として保護されてきたため、タブノキ、センダン、オオバギ等の植物で全域がうっそうとした林で被われている。特に、国仲御嶽は最も規模が大きく、かつ、宮古諸島でも最も自然林に近い林相を示す森林で、県指定の天然記念物になっている。御嶽は、伊良部島と下地島の自然植生を知る上で貴重であり、また、島の風俗、文化を象徴する人文景観としての歴史的背景をしのばせる。即ち、両島は、現在ある国仲御嶽、長浜御嶽、佐和田世乞御嶽にみられるように全域タブ林に被われていたと考えられている。このように自然林に近い植物群落は御嶽林においてみられる。

伊良部島は、隆起サンゴ礁の平坦な地形からなるので植物相は単調である。固有種はないが、分布上極めて興味のある植物が見られる。サキシマエノキが宮古島と伊良部島の牧山に見られるが、これはニューギニアにも分布する。宮古島と伊良部

島に見られるテンジクナスビは台湾や東南アジアに分布している。また、伊良部島と多良間島だけに見られるケナシハテルマカズラがある。

特に伊良部島及び下地島の海岸植生は、石灰岩特有の多様な地形に合わせて自然植生が生え、優れた景観を構成するばかりでなく、高い自然度を維持した貴重な資源である。

森林の少ない伊良部町では、計画的に人工造林が行われており、伊良部島北側、牧山及び下地島の空港西側において、リュウキュウマツ、モクマオウ等が植林され、国土保全、水源涵養及び風致景観の創出に重要な役割を果たしている。

ウ　野生動物

宮古諸島は、山地部や水系がほとんどなく規模の大きな森林が見られないといった地域特徴を有し、そのため、動物相も豊富には見られない。ただし鳥類に関しては沖縄地域で最も多く見られる地域となっている。

宮古諸島で確認された動物は、哺乳類が４種、鳥類が226種、爬虫類が15種、両生類が３種、甲殻類が14種、昆虫類が650種となっている。その中で、伊良部島及び下地島で生息が確認されている動物は、哺乳類が４種、鳥類が163種、爬虫類が11種、両生類が２種、甲殻類が６種となっている。昆虫類はチョウやトンボを除いては詳しく調査されておらず、何種類が生息しているかは明らかではない。現在、チョウの35種、トンボの12種が記録されている。

以下に、伊良部島及び下地島において確認されている動物の中で、主に天然記念物に指定されている種、固有種、固有亜種、希少種をとりあげてまとめる。

哺乳類はリュウキュウジャコウネズミ、クマネズミ、ドブネズミ、ホンドイタチの４種類確認されている。ホンドイタチは、ネズミを退治するために移入されたものである。

鳥類は渡り鳥146種、留鳥17種、合わせて163種が確認されている。宮古諸島は渡り鳥の重要な中継地点になっており、沖縄地域で見られるほとんどの渡り鳥が飛来する。特に、アジサシ類は日本で見られるほとんどの種が観察される。また、コウノトリ、ムギマキ、ヘラサギ、アカハラダカ、ハイイロガンのような、めったに見られない鳥も観察される。さらに、サシバの飛来でもよく知られ、沖縄に飛来する

サシバの90%以上が羽を休めることが知られている。キンバトは、宮古諸島を分布の北限として生息している。

爬虫類は11種確認される。ヘビ類については、宮古諸島の種が記録されている。特に、ヒメヘビは世界中で宮古島と伊良部島のみに生息する。ミヤコトカゲは珍しい生態を有し、岩礁性の海岸だけに生息している。

両生類は水系のないことも要因し、ヒメアマガエルとヌマガエルの２種しかいない。

両島で確認されている甲殻類は６種類である。天然記念物のヤドカリ類の他にヤシガニ、オカガニが生息している。

昆虫類の調査は十分にされていないため、正確な種数や目録は作成されていないのが現状である。

エ　人文その他の特殊景観

伊良部町において先史時代の遺跡は確認されていない。13～14世紀頃初めて牧山一帯に人々が移り住み集落を形成したとされている。ここからは、屋敷跡の石垣や食器として使用されたであろうシャコガイのかけらなどが確認されている。

その後、これらの人々は生活の便を求めて伊良部元島に移動したとされる。元島の洞窟内には水が流れ、付近の畑・原野付近からは、広い範囲に亘り陶器のかけらや貝殻、古墓が確認される。

また、大世主殿という沖永良部島の人が、人々を統治して農業を指導し、佐和田元島の地に島立てをしたと伝えられる。

王府時代は、「両島絵図帳」に“ゑらふ島”として“国仲村”“くがい村”“にし村”が見られる。その後18世紀中庸までに、移動や分村により国仲、伊良部、仲地、長浜、佐和田の５つの村が形成されている。

明治41年の間切による行政区分が行われていた時までの伊良部は、平良間切と下地間切に属していたが、明治41年４月の島嶼町村制により、伊良部、長浜、佐和田国仲、仲地、前里添、池間添の７ケ村をもって伊良部村が成立し、昭和57年に町制施行により伊良部町となっている。

伊良部町の文化は、概ね、宮古全般的なものであり、特に佐良浜地区は、平良市

池間島からの移住者によって、成立したことから池間島の祭りや行事が現在も同じように行われている。

多くの行事は、護国豊饒や漁業の安全、人々の健康などを祈るもので、この際、歌や踊り、ハーリーといった芸能や祭りが行われるなど、島ならではの行事が行われる。また、多くは、島にある御嶽等への祈願から祭祀や祭りが行われる。

(2) 利用の現況

宮古地域及び伊良部町への観光客の入域観光客等の状況は、表1、2に示すとおりである。入域客数は平成3年が158,794人で、昭和60年以降年平均6,494人増加している。

伊良部町への入域観光客等の状況は、昭和60年に約8,000人であったのが、平成3年には約5,000人と減少している。

宿泊施設は、伊良部島に6件の民宿がある。うち、5件は字国仲、字伊良部など伊良部島の西側、1件は字池間添となっている。客室総数は67室で、収容人員は188人となっている。

表1　観光客の入り込み状況

	昭和60年	昭和61年	昭和62年	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年
宮古地域	119,980	128,080	129,660	131,572	142,750	167,241	158,794
伊良部町	8,040	9,192	8,557	5,156	4,892	4,225	5,068

表2　利用交通手段

	利用区分	
	航空機	船舶
宮古地域	126,537	11,438
伊良部町	250	4,906

（3）社会経済的背景

ア　土地所有別

伊良部町の全面積（課税台帳より）3,917haに対し、公有地は約47％、民有地は約53％となり、公有地率が高くなっている。

特に、下地島の面積965haの内、県有地が732ha、町有地が187haを占め、島の面積の約95％が公有地である。

イ　人口及び産業

人口及び世帯数の推移は表３に示すとおりである。

平成２年の国勢調査によると、人口は8,031人となっている。昭和40年からの推移を見ると、昭和50年を除いて減少傾向にある。特に昭和40年／昭和45年に約11％減少し、また昭和60年／平成２年も約7.5％減少した。

町の振興・活性化のためには、人口増加が望まれ、そのため、町総合計画においては、平成７年７千人、平成12年１万人を目標とする人口フレームが設定されている。

表３　人口・世帯数の推移

年次	世帯数	人口			対前年増加率（％）	備考
		総数	男	女		
昭和40年	1,989	10,263	4,866	5,397		
昭和45年	1,949	9,132	4,396	4,736	△ 11.02	
昭和50年	1,928	9,164	4,507	4,657	0.35	
昭和55年	2,120	9,153	4,534	4,619	△0.12	
昭和60年	2,292	9,035	4,535	4,500	△1.29	
平成２年	2,288	8,031	3,966	4,065	△ 7.5	

産業別就業者数の推移は表４に示すとおりである。

平成２年現在の構成は、第１次産業約46％、第２次産業約15％、第３次産業約36％となって、第１次産業が５割近くを占める。

昭和50年からの推移を見ると、第１次産業が約９％の減少で、第３次産業が約12％増加し、サービス系産業依存型へ移行しつつある。

第１次産業は、昭和60年／平成２年で大幅な減少を見せるが、内訳では農業が増加し、水産業・養殖業が大幅な減少を見せる。第２次産業は８割近くが建設業に依存している状況である。第３次産業はサービス業が大幅な増加を見せている。

生産額を農業粗生産額、製造品出荷額、年間商品販売額で見ると、約42％が製造品出荷額、約31％が農業粗生産額、27％が年間商品販売額となっている。この傾向を宮古郡及び沖縄県に対し第２次産業及び第１次産業の割合が高い。

農業は、経営耕地面積が 1,362haで、その99％が普通畑である。ただし、これに下地島の黙認耕作地は含まれない。また、基盤整備が必要とされる農地の面積は約1,574haで、うち 377.5ha、24％が整備済みとなっている。

生産品目は、ほとんどがさとうきびであり、若干野菜やいも等が生産されている状況である。

表４　産業別・15歳以上就業者数の推移

	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成２年
総　　数	2,748(100.)	3,324(100.)	3,444(100.)	3,467(100.)
第１次産業	1,529(55.6)	1,628(49.0)	1,760(51.1)	1,607(46.4)
農業	884(32.2)	904(27.2)	1,241(36.0)	1,252(36.1)
林業	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(0.0)
漁業・養殖業	645(23.5)	724(21.8)	519(15.1)	354(10.2)
第２次産業	563(20.5)	638(19.2)	427(12.4)	534(15.4)
鉱業	6(0.2)	8(0.2)	0(0.0)	4(0.1)
建設業	486(17.7)	507(15.3)	335(9.7)	422(12.2)
製造業	71(2.6)	123(3.7)	92(2.7)	108(3.1)
第３次産業	656(23.9)	1,058(31.8)	1,257(36.5)	1,250(36.1)
卸売・小売業	234(8.5)	316(9.5)	329(9.6)	309(8.9)
運輸・通信業	79(2.9)	186(5.6)	242(7.0)	202(5.8)
サービス業	163(5.9)	259(7.8)	328(9.5)	411(11.9)
公務	150(5.5)	270(8.1)	311(9.0)	299(8.6)
その他・分類不能	30(1.2)	27(0.8)	47(1.4)	29(0.8)

伊良部町の産業は、明治12年頃に製塩業が盛んになって、宮古各地に出荷をはじめ、明治19年頃には、サトウキビの生産も行われるようになった。また、明治42年頃にはカツオ漁が開始された。当初は、伊良部島と宮古島間の海域で行われたが、近海のカツオ群が減少したため、発動機付きの漁船を購入して遠洋漁業が行われ、かつお節製造業もおこるなど、活況を呈した。近年は、パプアニューギニア、ソロ

モン、パラオ等南洋漁業が行われるなど、漁業振興の図られている町である。

ウ　権利制限関係

(7) 森林、保安林

伊良部町の森林面積は、総数が 635haで、内訳は県有林が14.39ha、2.3%、有林が483.9ha 、76.2%，私有林が 136.57ha、21.5%となっている。また総数うち 635haが地域森林計画対象となっている。

森林のうち、保安林は表５に示すとおり、２種類の保安林、合計 157haが指されている。

表５　伊良部町の保安林　　平成６年１２月

保安林種	面積（ha）	備考
潮風防備保安林	１４５	
防風保安林	１２	
計	１５７	

(イ)鳥獣保護区

伊良部町は、北西側の海域（リーフ周辺）を含め、カイツブリ、コアホウドヨシゴイ、ミゾゴイ等の集団渡来地として、表６に示すとおり県設の鳥獣保護に指定されている。

表６　伊良部町の鳥獣保護区

種別	名称	所在地	面積（ha）			期間
			陸域	海域	計	
集団渡来地	伊良部	伊良部町	3,918	933	4,851	H６.11.1～H26.10.31

※特別鳥獣保護区の指定はない。

(ｳ) 指定文化財

伊良部町における国、県、町指定の文化財は表７に示すとおりである。国指定の天然記念物は地域を定めず指定されているものである。

また、指定文化財以外の民俗文化財は表８に示すとおりである。

表７　伊良部町に所在する文化財一覧　　平成６年６月現在

種別		名称	位置	指定年月日
史跡	町指定	鯖沖井戸及び周辺	字国仲	S50. 8. 1
〃	〃	巨石墓スサビミャーカ	〃伊良部	S53.11.15
〃	〃	下地島の巨岩	下地島	S54. 6. 1
〃	〃	大和ブー大岩	字池間添	S54. 8. 3
〃	〃	アラ井戸	〃佐和田	S55. 6.26
〃	〃	ダキフ井戸	〃伊良部	S56.12.23
〃	〃	神里井戸	〃仲地	S56. 7.28
〃	〃	フナハ井戸	〃伊良部	〃
〃	〃	クンマウキャー御嶽	〃池間添	H6.6.3
〃	〃	乗瀬御嶽	〃伊良部	〃
〃	〃	佐和田ユークイ	〃佐和田	〃
史跡・天然記念物	〃	カナマラアブ	字池間添	〃
〃	〃	ウスバリアブ	〃	〃
〃	〃	タウワインミィアブ	〃	〃
〃	〃	アブガーNo.1	〃	〃
〃	〃	アブガーNo.2	〃	〃
〃	〃	ヌドゥクビアブ	〃	〃
〃	〃	ディズーアブ	〃	〃
天然記念物	国指定	アカヒゲ	地域を定めず	S45. 1.23
〃	〃	オカヤドカリ	〃	S45.11.12
〃	〃	カラスバト	〃	S46. 5.19
〃	〃	リュウキュウキンバト	〃	S47. 5.15
〃	〃	キシノウエトカゲ	〃	S50. 6.26

〃	県指定	下地島の通り池	下地島	S49. 2.22
〃	〃	国仲御嶽の植物群落	字国仲	〃
〃	町指定	黒浜御嶽の植物群落	〃佐和田	S52. 1. 5
〃	〃	大竹中洞穴	〃	S54. 2. 9

種別		名称	位置	指定年月日
天然記念物	〃	イラブナスビ	地域を定めず	H6.6.3
名勝	〃	白鳥崎岩礁海岸	字佐和田	〃
〃	〃	下地島南・西岩礁海岸一帯	下地島	〃
〃	〃	佐和田の浜珊瑚礁・礁湖	佐和田内海	〃
有形民俗文化財	〃	魚垣（カツ）	佐和田内海	S54. 5.11
有形文化財	〃	刀剣及び古文書	字伊良部	S51. 3.18
無形文化財	〃	イラウタオガニ	地域を定めず	H6.6.3
〃	〃	佐良浜ミャークツッ	池間添え・前里添	〃

表8　民俗文化財

名称	所在地	備考
仲御嶽	字佐和田	
長浜世乞御嶽	字長浜	御嶽林有り
ニバル御嶽	字仲地	御嶽林有り
社寺	字伊良部	
忠濃碑	字国仲	

(I) 海岸保全区域

海岸保全区域は、表９に示すとおりである。

総延長 4,827mが海岸保全区域に指定されている。

表９　海岸保全区域

		位置	規模	備　　考
1	建設省所管　要指定区域	字伊良部	1,300m	S50.10.2 第411号
2	運輸省所管（長山港）	字伊良部	720m	S50.10.2 第411号
3	運輸省所管（長山港）	字伊良部	357m	S63.9.6 第343号
4	構造改善局所管　佐和田海岸	字佐和田	3,170m	S48.10.25第348号

(オ) 港湾区域

港湾区域は、表10に示すとおりである。

島の南東側海域が長山港の港湾区域に指定されている。

表10　港湾区域

		位置	規模	備　　考
1	運輸省所管港湾区域(県管理)	字伊良部	2,253ha	S47.5.15

3　公園区域

県立伊良部自然公園の区域を次のとおりとする。

（表11 公園区域表）

市町村名	区　　域	面積（ha）
宮古郡 伊良部町	字池間添、字伊良部、字国仲、字佐和田、字仲地字長浜、字前里添の各一部	3，415
地先海域		2，324
合　　計		5，739